



## 戦間期ベルリンの新聞(Die Vossische Zeitung) オンライン



学内 IP アドレス自動認証、同時アクセスは無制限です

年間予約の場合 …… **¥1,360,800.-**

(6年連続予約すると買取が成立します)

8%消費税込価格でございます

一括買取価格につきましてはお問合せください。

(小社製利用ガイドを添付)

WdGの一般取引条件 [http://n-online.jp/WdG\\_agb.pdf](http://n-online.jp/WdG_agb.pdf) にご留意ください。

### [内容説明]

新聞データベース Die Vossische Zeitung Online 1918-1934 には最も古く、最も有名なベルリンの日報の1万を超す版、あわせて約 125,000 ページを全文テキストで収録しています。

1918年から1934年休刊までの全ての版がオンライン選別のために選り分けられ、欠落部分が埋められました。全ての版と付録のついた Vossische Zeitung のほかに、外国版 Die Voss と「ドイツからの Post」も収録しています。このようにして今までどの図書館にもなかったような卓抜した隙間のない選集ができました。

Vossische Zeitung はドイツの政治的な報道と社会批評についての研究にとっては比類ない、人に訴える力の大きいソースとみなされています。第一次世界大戦後の時代に Vossische Zeitung はプロイセンでもっとも重要な世論のひとつでした。変化に富んだ時代の出来事を日々新しく記述しコメントしました。第一次世界大戦の終わり、革命、レーテ共和国、ワイマール共和国初期の政治的な議論や混乱、1929年に始まった世界経済恐慌とナチズムの台頭。そのルポルターージュに「黄金の 20 年代」ベルリンの豊かな文化生活が再び映し出されます。

雑誌の個々の版はデジタルファクシミリとしてオンラインで提供されています。それぞれの版に電子内容索引がついています。さまざまな検索過程が容易でシンプルなアクセスを可能にします。個々の論文は部分に分けられ、カテゴリー、タイトル、または全文テキスト検索を用いて見つけられます。

個々の記事は快適に拡大できます。複数ページに亘る記事はつながられ、関連して読むことができます。データベースは利用者にソース資料の容易で親切な取扱いを保証します。

Vossische Zeitung 1918-1934 オンラインは、ワイマール時代に関する歴史研究の卓越したソースです。特に歴史、政治、文化、メディアの専門家を対象に書かれています。加えてオリジナルでは非常に費用をかけて保存されるばかりの大変破損しやすい新聞紙から、論文の長期の資料保存を果たしました。

Vossische Zeitung 1918-1934 オンラインはベルリン国立図書館—プロイセン文化遺産との共同作業によって作られました。

小社より、トライアルを提供しておりますので遠慮なくご要望ください。

**エヌオンライン**

人社系学術資料のデジタル情報専門店

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-10-202

TEL 03-5689-7270 FAX 03-5689-7271

<http://n-online.jp> email:customer@n-online.jp

DE  
G

De Gruyter  
Berlin · NewYork

## 【特色】

- ・ 傑出した現代史、文化史のソース・品質価値の高いデジタル化
- ・ 欠落のない収録内容・全文テキスト検索
- ・ これまで解明されなかった資料への新しい体系的なアクセス
- ・ カレンダー機能を使って版と付録への容易なアクセス・電子的内容索引でのナビゲーション

Die Welt 紙に掲載された紹介記事(2010年7月14日付)より、エヌオンラインが和訳・引用。

昨日の新聞ほど古いものはない、と確かによく言われます。しかし本当にそうでしょうか？

ショーペンハウアー曰く、「新聞は歴史の秒針である」。過去の事実をこれほど上手に再構築する手段は他にほとんどありません。

ドイツジャーナリズムの黄金期は1920年代。その印刷物で標識となるものの一つにリベラル保守の新聞 *Vossische Zeitung* があります。1918年1月1日からヒトラーの弾圧による1934年3月31日の新聞休刊までの間でも、合計127,000ページ、約10,500の異なった版が刊行されました。これらすべてを、今デジタル形式で完全に検索できるようになりました。

このプロジェクトはベルリン国立図書館と deGruyter 社の協同で行なわれ、シュプリンガー社のサポートを受けました。なぜならドイツ最大の学術総合図書館である国立図書館ですら本物の *Vossische* 紙のすべての各版は持っていないのです。

その成果が、全文テキストと同様、各見出しでも検索可能なデータベースとなりました。発見されたオリジナルは活字面で刊行され、また利用者は検索した記事の位置を全ページに表示することができます。

このプロジェクトは簡単に迅速なアクセスを目指したばかりではありません。デジタル化により価値ある文化遺産の長期保存を確かなものにししました。なぜなら *Vossische Zeitung* はベルリンの最も伝統豊かな新聞であるだけでなく、国際的にも高く評価されているからです。リベラルな市民の心に訴え、今オンラインでアクセスできるようになった年代とは、まさに、ドイツ最初の民主主義の先駆者たちのものです。1914年から1930年まで在職した編集長ゲオルク・ベルンハルトの下で、編集部は最も高いレベルで報道し、社会批評をしました。第一次世界大戦での敗北のショックは、若きワイマール共和国の危機や1923年からの回復、極左と極右による挑発と同じく、毎日2度発行される新聞紙上に反映されました。

最も著名な *Vossische* 紙の投稿者には、パリ通信員でもあったクルト・ティホルスキーや裁判記者パウル・シュレジンガーがおり、またレマルクの反戦小説「西部戦線異常なし」も紙上連載されました。

ジャーナリズムの質は高いけれども新聞自体の経済基盤は脆く、1914年の初めによく、購読部数29,400部を数えても、独立を保つには少なすぎました。リベラルなウルシュタイン社がジャーナリズムの旗艦として *Vossische* を引き継いで、「ベルリナー・モルゲンポスト」など大衆紙の儲けから補助しました。

ナチスがドイツユダヤ出版社ウルシュタインを1933-34年に烈しく弾圧した時、*Vossische* を放棄せざるを得なくなりました。最後の編集長、33歳であったエーリッヒ・ヴェルターは彼の最後の社説を痛ましい言葉で始めました。「まもなく250年になる、ある新聞の歴史が今日この日に終焉を迎える。」

まずは16年分のデジタル化でこの宝物が図書館利用者に快適なアクセスを提供するでしょう。国立図書館館長シュナイダーケンプフは、このデータベースがアメリカやオーストラリアではすでに存在する、ドイツ新聞のオンラインコレクションの嚆矢となることを望んでいます。今、まさに、一昨日の新聞がより新しい刺激となるのです。

ウェブ画像をご参照ください：[アクセスURL](#)、[日付で検索](#)、[検索語を入力](#)、[サンプル記事](#)